

シカ皮の活用考える

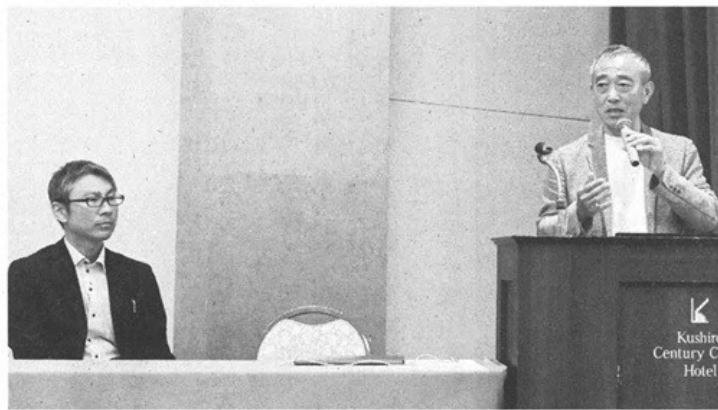
釧路新産業
創造研で講演 優位性など提示

釧路新産業創造研究会（富田昌利会長）の2025年度第1回研究会が16日、釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれた。第1部では道東のエゾシカを活用した鹿革の製品化に乗り出した山一佐藤紙店（釧路市北大通8）の佐藤公一郎社長の進行により、皮のなめし・加工を手掛ける山口産業（東京）社長の山口明宏氏が「革づくりの立場から見たエゾ鹿革の可能性」と題し講演した。

シカ皮は未活用で捨てられていることが多いことから、佐藤社長は昨年「地域資源として活用するための取り組みを開始。ブランド名「EZO theatrical Leather」（エゾシカルレザー）」の商標登録も申請中で、9月には革製品の製造、販売を行う新会社の設立を目指している。

山口氏は一般社団法人「本革のほとんどがクロムなど重金属系の工業製品を使って作るクロムなめし製法で革加工をしているが、われわれはこのクロムがゼロになり環境に優しい「ラセッティング（なめし製法）で行い

エゾシカ革の優位性について講演する山口氏（右）と佐藤社長



優位性を語った。エゾシカ革の商品化について、前職で馬具メーカー「ソメスサドル」で営業部長を勤めていたムラカミ（札幌）の加藤幸治郎氏は「売る側として、品質のばらつきをなくすこと。牛革との違いを生かすこと」などを挙げた。

第2部では「地方都市におけるデータセンターの可能性」と題し、ピクセルカンパニーズ前代表取締役の吉田弘明氏が講演。コンテナ型データセンターの利点を説明し、釧路でも建設が可能なことを説いた。（小西靖）

サンエス企業グループ代表 宮田昌利が会長を務める「釧路新産業創造研究会」の関係記事です

7月18日付の北海道通信、北海道建設新聞、北海道新聞にも同様の記事が掲載されました